

館の運営方針	歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。
ジャンルの目標	
成人を対象として、佐倉の自然・歴史・文化・ゆかりの人物などが学べることで、ふるさと佐倉の理解を深めることを目標とする。事業としては、主に高齢者を対象とした4年制の市民カレッジや自分が住む郷土を学ぶ佐倉学や地域づくりの講座などを実施することで、佐倉の人づくりや地域づくりにつなげる。	

☆個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	佐倉学講座「正岡子規『総武鐵道』から見えて来るもの」	本講座は、「佐倉学」を総合的に学べる場を提供し、「佐倉学」の普及を図りながら、「人材の育成」と「新しい地域文化の創造」を目指すとともに、郷土愛を育むこと、関心を高めることを目的として実施するものです。正岡子規は日清戦争が勃発した明治27年、開通したばかりの総武鐵道に乗って佐倉を訪れました。彼が新聞「日本」に「総武鐵道」と題して書いた紀行文には、当時の時代背景と風土が豊かに描かれています。二回の連続講座でそれを詳細に読み取り、佐倉の歴史と風土への理解を深めることを目的とします。
②	パソコンイベント～Wordで年賀状を作ろう！～	初級者を対象としたパソコンのイベントです。パソコン等の機器に実際に触れ、操作することによって、どのようなものであるかを体験する。
③	印旛沼公開講座「温故知新」	印旛沼環境基金が主催し、環境保全課、との共催事業。佐倉市のシンボルでもある印旛沼の状況と自然環境と水の浄化について学ぶ。
④	佐倉学講座「佐倉・城下町400年と土井利勝」	佐倉・城下町400年記念事業として、1611年に始まったと記録されている佐倉城築城関係の歴史を学ぶことによって都市として佐倉市の起源を知り、「歴史のまち佐倉」の理解が深まる。を行い、土井利勝が佐倉城とその城下町を整備してから約400年の歴史を学ぶ。
⑤	佐倉市民カレッジ	高齢化社会のなかで、市民が健康で生きがいを持ち、地域と連携をもちながら、住みよいまちづくりを考え、実践をとおした生涯学習の場とする。「であい課程」では、主に一般教養科目を学ぶ。その領域は、健康・家庭・生きがい・経済・佐倉の歴史・環境・市政・福祉・国際理解・仲間づくり等である。「専攻課程」は、「であい課程」を修了後、更に学びたい人のための専門別学習コースであり、卒業後の実践活動に役立たせるために、体験学習、話し合い、発表等の学習方法を取り入れている。公開講座、ミニセミナー等を拡充し、一般への学習機会の提供を図る。
⑥	佐倉学・体験講座「佐倉民話を語る会派遣事業」さくらっ古、「佐倉こどもかるた普及派遣事業」子都手留会	佐倉に伝わる民話を題材とした語りを行うグループを市内小学校等に派遣し、民話や佐倉こどもかるたを通じて郷土愛を育む。
⑦	佐倉学専門講座「印旛沼の文化と自然」	佐倉の象徴として「印旛沼の文化と自然」を学び、かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に伝えていくことの重要性を認識してもらう。
⑧	地域づくり入門講座「地元野菜を使ったスイーツ作りに挑戦！」	地元野菜の新しい活用法を学び実践することにより、地産地消の推進を図り、食料自給率の向上や地域の活性化につなげ地域へのつながりと興味を深める。
⑨	さくら学び塾「いきいき体操を楽しもう～心と体の健康づくり～」	体が軽くなるリズム体操と姿勢が良くなる全身運動を自ら体験する講座。(コミュニティ事業として、市民講師の企画に基づき開設する)
⑩	佐倉学講座「古今佐倉真佐子を歩く」	江戸時代中期、佐倉の領主であった稲葉氏の家臣渡辺善右衛門が記した「古今佐倉真佐子」には当時の佐倉城とその城下町の様子が描かれている。これまでは佐倉の歴史といえば幕末・明治期が目立ってきたが、「古今佐倉真佐子」に記述された場所を散策し、作者が歩いた佐倉城とその城下町を参加者も実際に歩き、体感する。

☆ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般			
企画	企画段階での課題と解決策	A	A: 各個別事業の想定課題は正しかった。 B: 各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C: 個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i: 途中で変更した。 ii: そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B	A: 各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B: 各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C: 各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i: 別の方向に進めた。 ii: そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	成人教育事業は、年齢幅が広く、最も多くの市民を対象とし実施するものである。現状では継続事業が多くなっているが、各事業を実施するにあたり、対象者に対して事業のねらいどおりに行うことができているのかを毎年チェックをする必要がある。各年度において受講者目線に立った内容に改善していくことが重要である。	
改善	次年度への課題と展望策	B	A: 事業拡大。 B: 現状規模での継続。 C: 事業縮小。 D: 目的達成により終了。 E: 統合・改善・その他 ()

総合評価	
A	事業規模 A: 適切で成果が得られている。 B: 課題あり、成果が得られている。 C: 課題あり、成果があまりない。 D: 成果が得られていない。 E: 現段階では判断できない。
	成果 成人教育事業は、中央公民館で行う事業の中で一番多く実施している社会教育事業である。市民カレッジ事業のように地域活動をおしてまちづくりに貢献し、成果が得られているものが多い。佐倉学講座においては受講者へのアンケート調査で高い満足度を得ており、パソコンイベント事業も(市民カレッジ卒業生の手伝いにより)毎年実施しているが、応募も多く、受講者には年賀状作成等に大いに役立っている。
	課題 専門性が高く受講者の参加が増えていない講座があるので、アンケート等を取ることで市民の意見を把握し、事業内容の見直しを行っていく必要がある。

☆公民館運営審議委員意見

委員①	
総合評価	A

委員②		
総合評価	A	

委員③		
総合評価	A	佐倉の歴史・自然・文化について学ぶ事業を設定しバランスがとれた内容になっている。また、受講生が終了後もまちづくりに貢献している点も評価できる。参加者も多い状況であり成果があがっているものと思われる。今後の課題としては、年齢別参加者数の統計をとるなどして、幅広い年齢層の参加状況を把握していく必要もあると考える。また、具体的に人づくりや地域づくりにどのような効果があったのか事例を多く示していくことが他の公民館の事業運営の参考になると思う。

委員④		
総合評価	A	・佐倉学 体験講座「佐倉こどもかるた」子ども達の反応がとても知りたい部分です。

委員⑤		
総合評価	A	・市民カレッジ卒業生のボランティア講師の事業②④⑥、公民館利用サークルの講師の事業など公民館事業に相応しいので今後も継続が望まれる。 ・事業の参加人数が全てではないが、定員に満たない講座については、実施期間(時期)などの見直す必要がないか。 ・印旛沼公開講座については、受講者目線での講座になるよう講師との事業打合せを大切に。

委員⑥		
総合評価	A	高齢化がさらに進み、人口の定着性が高まると、都市が「田舎化・村化」していかなければ、暮らせる地域にはならないとも言われます。学校教育が終わると「会社教育」で学んできた私たちは、私たちの歩む「田舎社会」「村社会」への過程は、社会教育過程そのものであるような気がします。地域に学びの場が失われている現在こそ、公民館等による社会教育の場の提供はますます重要になってきます。特に成人教育においては、地域の活動主体形成を視野に入れた公民館活動に、期待が集まっています。 成人教育では、「ふるさと佐倉の理解を深めることを目標とする」とされていますが、そのためにも様々な切り口で講座等が用意されていることが必要だと思います。事業内容からは、一般教養講座とはならないように意識しながら、多角的に講座を組み上げていることが窺えます。このため、学習全体から考えると必要だが、参加者を集めるのが難しい講座もあると思います。何よりも積み重ねが大切なので、講座の位置付けを明確にした上で、参加者数の多寡に係らず、意思を強く持って進めていただきたいと思います。 講師も専門家から地域人材まで、講座の内容に合わせて幅広く活用されています。それぞれの良さがありますので、これからも地域人材・団体の活用を進められますとともに、より高度な学習意欲に応えるためにも、専門家による講座も織り交せて頂きたいと思えます。 自己評価3事業ですが、自然、文化、現在の課題(情報化)ということで、多様で意識された講座づくりが窺えます。 学習等の入口は「市民の親しみやすさ」かも知れませんが、その切り口から内容を拡大していく体系的、戦略的な取り組みを期待しています。 「情報化」では、パソコン講座での取り組みとなっています。パソコン講座の難しさは、何をめざすのか、どのレベルに設定するのか、ということがあります。結局のところ、パソコン入門編はいつまで必要か？ということにもなると思います。ワープロ専用機が普及し始めた頃から自分史執筆ブームが始まりましたが、年賀状づくりの次のステップも考えられて良いのではと思います。ただ、公民館事業として「パソコン技能習得」にどこまで、いつまで係るのかということは検討されるべきだと思います。 印旛沼講座ですが、佐倉市の全ての河川が印旛沼に注ぎ、また河川の最下流部に位置する佐倉市という地理的特性と生活の関わりから、佐倉を学び考えていく上で、各地区で印旛沼講座が様々な視点から展開されています。沼の歴史は佐倉形成の歴史でもあり、沼は佐倉を写す鏡です。時に重複する講座内容があってもよいと思います。環境部門、他の社会教育部門等との連携をさらに強めながら、印旛沼関連講座の充実を期待しています。有効性自己評価Cというのは、市全体として内容重複が見られることが要因ということですが、必要性はA評価であるべきです。地域を愛する心は、地域を様々な視点から知ることから始まるものだと思いますので、このような試みは、様々な場所で行われるべきであり、同じような講座等が、様々な場所で開催されることも、地域の広い佐倉市では必要なことでもあると思います。その意味で、効率性という評価視点はなじまないものと思います。他館、印旛沼環境基金、環境行政部門、図書館講座、地域活動団体による取組みなど、活動全体を見通している必要はあると思いますが、それぞれの立ち位置での取り組みがある訳ですから、連携が必要であっても、『重複』によって判断するものではないと思います。その時点で、その館として必要と判断した事業内容は、「重複」があったとしても実践していくことが必要だと思います。

委員⑦		
総合評価	A	・数多くの事業の取り組みは、施設を最大限利用していて、稼働率も高いと思います。 公民館とそこに配属された職員の方々は、住民のために場所と施設が持っているノウハウを十分提供していただきたいものです。 どの公民館にも言えることですが、まずはちょっと立ち寄れる場所であってほしいと思います。敷居が高くては、入りにくい。

委員⑧		<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンイベントはパソコン情報時代のため継続を望みます。 ・印旛沼公開講座「印旛沼」は佐倉市の象徴のため文化と自然について専門的に学ぶ機会を得られるため継続を望みます。
総合評価	A	

委員⑨		<ul style="list-style-type: none"> ・地域に眠っているマンパワーを、引き出すきっかけとなる成人教育の中の、特に市民カレッジには期待している。
総合評価	A	

委員⑩		<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容が非常に豊富で、佐倉の自然・歴史・文化などについて魅力あるテーマの講座が用意されており、継続していただきたい。
総合評価	A	

委員⑪		<ul style="list-style-type: none"> ・市民カレッジ受講生の高齢化に伴い、応募要領の見直し、カリキュラムの内容の検討等、早急に対応する必要があると考えます。
総合評価	A	

委員⑫		<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉の歴史や自然を総合的に学ぶバラエティーにとんだ事業は、人づくり・まちづくりに向け実を結んでいる。4年制の「市民カレッジ」は卒業生の多くがサークル活動に参加し広く社会貢献しており、地域を明るく元気づける不可欠の存在になっている。ただ受講者の高齢化が進むなかで中退者が増える傾向がみられ、地域活動への影響も憂慮される。社会変動、住民ニーズに即したシステムや運営面の見直し時期にきている。
総合評価	A	

委員⑬		<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容は豊富で、目標はほぼ達成しているのではと思います。 実施されている10の事業は、成人教育の目標達成に十分な項目と内容(佐倉の歴史・文化講座、環境問題の講座、健康管理の講座、地産地消などに加えて一般教養の市民カレッジ)と思います。しいて指摘をすれば、歴史・文化の講座に千葉県や国の歴史・文化講座が加われれば完全ではと思います。具体的な提案です、成人教育の柱に育った市民カレッジのカリキュラムの中に、歴史・文化の講座があれば、生徒以外の一般の人にも受講出来るよう開放にはいかがでしょうか？会場や日時等に検討は必要と思います？
総合評価	A	

委員⑭		<ul style="list-style-type: none"> ・事業③と⑦はいずれも印旛沼に関する講座であるが、両者の違いや特徴がよく分からない。同年次の事業としてこの二つを計画した狙い、必要性は何処にあったのが疑問である。中央公民館の事業は、市全域を対象にした内容(例えばカレッジ等)と、公民館の所在する地域住民を主対象にした事業を遂行する義務があると考えている。市の中心地として栄えてきた地域という歴史的な面もあって、地域住民のみを対象にする事業に限られるという点も理解できるが、青少年育成や団体育成事業など全事業ジャンルのバランスも含めた検討をお願いしたい。
総合評価	A	

委員⑮	
総合評価	A
<p>成人という年齢幅の広い事業を行うことは、対象年齢をどの層に置くか難しいが公開講座を除き参加人数から判断し概ね目的は達せられたと考えられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐倉学講座(正岡子規・・・) ・鉄道との歴史のつながりを学べ理解を得られと思われる ・パソコン講座 ・カレッジ卒業生のお手伝いで二重の成果が出ている ・印旛沼公開講座 <p>共催事業の割に参加者が少ない。24年度の約60%であり検討が必要</p>	